



三木町

No.132  
2010.July

# 議会だより

<http://www.town.miki.lg.jp/>



もうすぐ楽しい夏休み

## 6月定例議会

- 議案を審議 ..... 2~3
- 一般質問 ..... 4~6  
3人が登壇・町長に見解を求める
- 委員会レポート ..... 8~9
- 元気なグループ紹介 ..... 10  
讃南きらく会



町花:シャクヤク



▲本会議採決の様

# 6月 定例議会

## 環境基本条例を制定

平成22年第2回定例議会は、6月2日から10日までの9日間の日程で開催された。

三木町土地開発公社の経営状況についてなど4件の報告があり、承認した。

また、環境基本条例の制定案や一般会計補正予算案など8件の議案に加え、追加議案1件の全9議案が上程され、慎重に審議し、全議案を原案どおり可決・承認した。

一般質問では、3人が登壇し、行財政改革や町内における口蹄疫対策、自治基本条例の制定についてなど、町の将来を考え、それぞれの意見が交わされた。

## 議案を審議

### アップ 国保税限度額4万円

**問** 最近、連続して保険税の上限が上がる。払える者が、もっと多く払えばいいという発想に見える改訂だ。

**答** 医療費が増大する中においても税率を上げずに中低所得者の負担を軽減するのが目的である。

### 答 税務課長

医療費が増大する中においても税率を上げずに中低所得者の負担を軽減するのが目的である。

### 安全・安心な水道水の供給を目指して

堂ヶ平簡易水道事業の老朽施設を更新する。

費用は3920万円。その2分の1は優遇措置を受けられる「辺地対策事業債」を活用する。その前提となる総合整備計画を策定したとの説明があった。

## 議 会 の 動 き

- 4月1 議会広報編集委員会
- 8 議会広報編集委員会
- 13 下水道推進特別委員会
- 14 議会広報編集委員会
- 19 建設経済常任委員会
- 5月12 建設経済常任委員会
- 14 下水道推進特別委員会
- 24 教育民生常任委員会
- 25 議会運営委員会
- 6月2 第2回定例議会開会  
(議案の上程、質疑)
- 議会広報編集委員会
- 3 総務常任委員会
- 3 教育民生常任委員会
- 4 建設経済常任委員会
- 7 本会議(一般質問)
- 議会運営委員会
- 10 本会議(議案の質疑、討論、採決。追加議案の上程、採決)
- 議会議員全員協議会
- 17 下水道推進特別委員会

**問** この施設の耐用年数は。

**答** 上下水道課長  
配水池は20年、ろ過装置については17年である。

**答** 政策情報課長  
この施設は、すでに25年を経過している。

中でもろ過装置、および配水池は機能維持に対する問題が発生している。給水不能事態を回避するため、早急な更新が必要であり、計画を策定した。

**環境の保全に向けて**

**三木町環境基本条例を制定**

**問** なぜ、この時期に基本条例を制定するのか。

**答** 環境保全課長

町民の健康で文化的な生活の確保に努めることを目的として制定したい。今後早期に町、事業者、町民それぞれが、環境問題に取り組み、長期的展望のもとに総合的な施策を講じていくための提案である。

**共同福祉施設での宿泊が可能に**

三木町総合運動公園の設置及び管理に関する条例の一部改正

**問** 宿泊できるようにするための準備は進んでいるのか。

**答** 生涯学習課長

宿泊所という形で用途変更を申請中である。

シャワーはあるが、風呂はない。寝具等については、利

用者が直接レンタル業者への申し込みをしていただき、利用料は20人までが6000円、一人追加ごとに3000円いただく予定である。

**土地改良事業を施行**

土地改良事業による農道舗装を、田中、東田中の2地区で計画をしている。

**問** 事業の完了予定は。

**答** 土木建設課長

2、3年かかるが、県の予算が付けば早く推進する。

**問** 事業採択の基準は。

**答** 土木建設課長

ほ場整備完了区内の未舗装の生活道で、起点、終点が公道に接しており、軟弱作物を栽培している農

**人事**

人権擁護委員  
酒井高子氏の推薦に同意



平成19年10月就任以来、2期目  
大字鹿庭(65歳)

**問** 事業地内の幅員4m未満の対象にならない道路整備に、救済策はできないのか。

**答** 土木建設課長

防塵舗装での対応を検討する。

**答** 土木建設課長

防塵舗装での対応を検討する。



第2回定例議会(6月)  
**議員出欠表**  
(本会議のみ)

議員氏名	6/2	6/7	6/10
富田 修司	○	○	○
渡辺 達実	○	○	○
松原 哲也	○	○	○
三木 和則	○	×	×
山西 義典	○	○	○
白井 正治	○	○	○
三宅 貞夫	○	○	○
山西 俊之	○	○	○
古市 嘉忠	○	○	○
西丸 一明	○	×	○
谷畑 健二	○	○	○
桑井 明人	○	○	○
原田 照治	○	○	○
筒井 米市	○	○	○
石井 定夫	○	○	○
香西 茂知	○	○	○
古市 弘	○	○	○

○印は出席 ○は半欠 ×は欠席  
今期定例議会の傍聴者は、延べ27人でした。  
次の定例議会の予定は、9月中旬頃の予定です。

# 問 自主・自立の財政運営は

## 答 規律ある財政運営を徹底する



一般質問  
原田 照治 議員

全国知事会が「地域主権基本法」の立法化を提唱している中、自主・自立の財政運営について、地方自治体の長としてどのような見解をもっているのか。

町長

自主・自立の財政運営については、現下の経済情勢や地方財政対策の動向を踏まえて、引き続き規律ある財政運営を徹底することはもとより、将来にわたり町民一人ひとりが、真の豊かさや安らぎを実感できるような、不断の決意と揺るぎない信念を持って、残された任期、町政運営に全力を傾注していきたい。

地方分権改革推進委員会は政府に提出した第四次勧告の中で、当面の課題として新年度予算に反映させる地方財政の問題や中長期的課題を提言している。こうした中、現下の地域主権改革に対する町長の見解を問う。

町長

税制改革を含む地域主権改革の将来像は、「国と地方の協議の場」を通じて、国と地方が共につくり上げていくことになっており、「地方の発展なくして国家の伸展はありえない」という信念の下、一層の地方振興を図り、地域の実情に即した行財政上の措置

が講じられるよう、実効ある活動を引き続き任期間、展開していく。

本町を含む各地方自治体への大きな影響を及ぼすと考えられる政府の事業仕分けについての見解を問う。

また、本町においても住民の血と汗と涙の血税がどのように使われているのかという意識は、今後ますます増幅されると考えられるが、町長はこうした住民ニーズにどのように応えるのか伺う。

町長

新政権のもと行われた「事業仕分け」は、不要不急な事業

や過大な予算要求を洗い出すとともに、公開して事業の透明化を図った意義は大きかったと思うが、地方を始めたとする弱者の意見とかい離れたことも事実である。

なお、本町においても、事業の必要性や改善方法などを町民目線に立ち、透明性の向上、経営的視線の強化等の観点からさらなる財政情報の開示に取り組む。

### 福祉施策の課題は

急速な少子高齢化が進む中、家庭や地域社会の急激な変化に対して、個人の自立・自助を

支えていくためには一次予防を中心とした健康づくりが、今まさに喫緊の課題であると思うが、町長の考えを問う。

町長

一次予防を中心とした「健康づくり事業」については、がん検診や特定検診・特定保健指導、保健師による家庭訪問などに取り組んでいる。

また、住民が安心して暮らせる町づくりを



▲さんさん会介護予防運動

目標に、健康保持・増進とともに、疾病の早期発見・早期治療に結びつけることによる医療費の削減に努めている。

社会全体としては、高齢世代、現役世代、年少世代のバランスのとれた社会が健全な姿である。次の世代を形成するために、子どもを生育しやすいさらなる充実した政策、環境づくりを願うものであるが、町長の見解を問う。

町長

次世代育成支援後期行動計画を基本とした長期ビジョンに立ち、次代の社会を担う子どもたちが健やかに生まれ、育つことのできる家庭環境づくりを支援するなど、家庭、地域、企業、行政が連携し、さらなる子育て支援を推進しなければならぬと考えている。

## 問 下水道整備事業への理解と協力を

### めざした取り組み状況を問う

## 答 誠意を持って対応し、努力していく



一般質問  
渡辺 達実 議員

下水道整備事業の進捗状況を問う。

町長

公共下水道・中部地区事業は、74%の管路が整備済みとなっている。三木浄化センターの建設は、周辺住民や関係機関との調整・協議を行い、早期に建設工事に着手できよう努めている。

農業集落排水事業三木東地区は、管路工事の約4割が完了している。浄化センターの建設場所は、4月13日に開催された下水道推進特別委員会において、新開地区が妥当と了承されたので、今後、エリア見直しなどを行い、平成23年度には事業の再開を図りたいと考えている。

住民のみなさんの理解を得るための、一層の努力が求められているが、取り組みの状況を問う。

町長

公共下水道事業については、浄化センター建設予定地の隣接団地の住民の方々と定期的に意見交換会を実施し、大水時の対応などについて説明してきた。今後も誠意を持って対応し、理解を得る努力をしていきたい。また、隣接農地のほ場整備については、協議を行なっている。新川放流については、男井間池土地改良区などに対しては、下水道整備により、水質が向上するなど説明し、理解を得たいと考えている。

農業集落排水については、浄化センター建設候補地の住民から、住民訴訟や住民監査請求が出されるなど、反対運動が起きている。町民が快適で衛生的な生活環境を享受するため、町の責務として、下水道の整備事業を重点的に実施している。今後も周辺住民に対して、理解を得る努力をしていく。



▲新川をのぞむ

家畜伝染病・口蹄疫の対策は

口蹄疫が猛威をふるっている。三木町は畜産業が盛んである。今後に向けた対策を問う。

町長

4月20日、宮崎県で口蹄疫が確認され猛威をふるっている。6月4日には、特別措置法が施行された。

県からは、全ての対象畜産農家等に対して、情報提供、異常家畜の有無、衛生管理基準の遵守等を周知している。防疫体制の徹底の配布を行っている。本町の畜産農家は、

酪農10戸、肉牛9戸で、飼育総数は1069頭となっている。畜産農家に対して、塩素系消毒薬を無料配布している。今後は、県や農協と情報収集や周知、消毒の徹底を図り、口蹄疫発生防止のため、防疫体制に取り組んでいく。

住宅リフォーム助成制度の創設を求める

全国では、住宅のリフォームを行った場合に、経費の一部を助成する制度を導入している。住宅の改善が進むとともに、地元の事業者の受注が増え、商工業の振興につながる。高く評価されている。制度の創設を強く望む。

町長

本町では、要介護者等の生活弱者の住宅改修に対する助成や、障害者対象のバ

「全国小さくても輝く自治体フォーラムの会」が発足

リアフリー化工事に對しても助成している。町は現在、下水道事業の環境整備を最優先しているの、理解してほしい。

道州制の導入反対など、さまざまな課題に向けての活動が期待されている。今後の活動計画の説明を求める。

町長

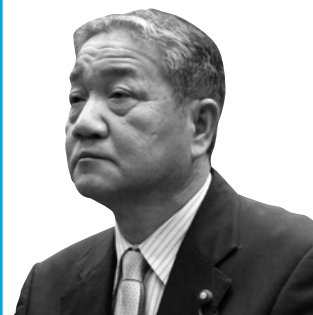
5月29日、東京に全国から約60人の町村長が集まり、発足総会が開催された。自立をめざす小規模自治体が、目的と課題を共有し、分権の時代にあふさわしい自治の実践を全国にアピールすることを目的に活動を計画している。

# 問 町づくりの基本となる

## 自治基本条例の制定を

**答** 他自治体の今後の動向を

注視しながら検討する



一般質問  
香西 義典 議員

住民参加と協働による自治のあり方、町政運営の基本的な考えや仕組みづくりが必要ではないかと考えているが、本町における自治基本条例制定の必要性についての見解を伺う。

町長

県下では、平成17年に、さぬき市町づくり基本条例と善通寺市自治基本条例が制定され、その後、丸亀市と高松市においても自治基本条例が制定されているが、条例名称のみならず、その内容についても各自治体で差異がある。町政運営にあたり、自治基本条例の

持つ基本理念については、十分承知しているが、その導入に関しては、他の自治体の今後の動向を注視しながら検討したい。

### 町の振興計画は

「第4次三木町振興計画」の後期基本計画が、平成18年度から22年度までの5年間の計画期間として策定されているが、今年度はその最終年となっている。

この計画の進捗状況、ならびに現状の課題、問題点等についてどのように分析をしているのか。

町長

昭和52年度の「第1次振興計画」を皮切りに、現在の「人と自然にやさしいまち・三木」を基本理念とする「第4次振興計画」を策定し、住民福祉の向上を目的とした「まちづくり」が堅実に進められてきた。

そのような中、平成18年度から22年度までの5年間の計画期間とした現行の後期基本計画は、今年度、最終年を迎えており、今後、残された期間で計画の総括を行うとともに、これまでの課題を整理して、平成23年度を起点として策定する「第5次振興計画」の中に

活かしたい。

今後は、これからの住民の方々の声を十分に取り入れた中、新たな時代にふさわしい「第5次振興計画」を策定したい。



▲池戸地区にある消防水利

### 消防水利の実態は

本町の消防水利に関する事業全般について、消防法に定められている基準や規定を満たしているのか。

また、現在町内全域に分布している消防水利施設をどのように管理しているのか、その現状は。

町長

基準や規定を満たしているかは消防法において、また、消防に必要な水利の基準は、消防庁の勧告によることと規定されており、防火水槽においては、消防水利の基準と消防力の整備指針の要件が異なることから、一概に判断できない。

これら施設の維持管理は、いざというときに確実に機能が果たせるように三木消防署が定期的に点検を行うと共に、消防団においても巡視による確認を行っている。

現在、消火栓365基、防火水槽24か所を消防水利として消防水利台帳に登録している。

### その他の質問

○町職員の士気向上とレベルアップについて

# 追跡

第16回

# レポート

どう  
なっとんな？



## 循環型社会の構築が重要である

我々人類は、自然環境を資本として文明を発展させてきた。今後の地球環境保全に対する町長の考えを問う。

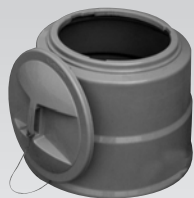
平成20年6月定例議会 一般質問



## 町長答弁

私たち一人ひとりが家庭や職場などで、環境対策に取り組み、循環型社会を構築していくことが重要である。

## こうしています



コンポスター

▲補助金を出して推進している生ごみ処理容器

緊急雇用創出基金事業を活用し、ごみの減量化や再生利用の周知等に積極的に取り組んでいる。生ごみ処理容器購入費に対する補助も継続実施し、循環型社会の構築を進めている。

## 白山景観整備事業 今後の計画は

白山景観整備事業の防災面に関して、施工状況及び今後の計画を問う。

平成21年1月

環境保全対策特別委員会



## 産業振興課長答弁

防災工事はほとんど完了している。今後は、町道の拡幅工事に合わせて、側溝部分への接続工事や、法面保護工事などを進めていく。

## こうなっています



工事が進んでいます。

# 委員会レポート

## 教育民生

5月開会

本年度で校舎等耐震化事業を完了。

**問** 今までの耐震化事業の事業費は。

**答** 教育総務課長

総額で13億8千万円

弱である。

今回の発注額は、1億9千493万円余である。Is値の値によって3分の2または2分の1の国費補助に加え、公共投資臨時交付金がついている。

Is値とは、耐震改修促進法に基づき定められた構造耐震指標。耐震診断で判断の基準となる値をいう。

## 建設経済

4月開会

三木浄化センター建設に対する陳情書、農業集落排水事業三木東地区の浄化センターの早期建設を求める陳情書、農業集落排水事業三木東地区管路の公共下水道処理場への接続を求める陳情書の3件を審査した。

**問** 三木浄化センターが建設されると、台風時の水害が心配されるが。

**答** 上下水道課長

女井間池の管理は町が行うと、水害はないものと思われる。

**問** 三木浄化センターへの接続の検討は。

**答** 上下水道課長

公共下水道接続の場合と処理場建設の比較において、接続より建設のほうが安価である。

**問** 接続検討の金額は、町との利害関係のない機関を活用して、検証はなされているのか。

**答** 参考

本町の下水道事業に携わっていないコンサルタント業者に検証してもらった。

検証においても比較検討の町の考え方に問題はなかった。

5月開会

**問** 三木浄化センター建設に関する陳情を審査した後、担当課より平成22年度の主な事業計画の報告があった。

**答** 上下水道課長

予定地周辺に対する今後の説明は。

**答** 上下水道課長

井上南部の農業集落排水事業の総会でご検討をさせていただきたい。

周辺住民の方から臭いに対する不安があるという事で、代表者の方に先進地を見てもらいたいということを話している。

## 下水道推進

4月開会

担当課から、本年2月26日開会の、本特別委員会以降の公共下水道事業と、農業集落排水事業の状況について説明があった。

## 公共下水道事業

**問** 公共下水道と農業集落排水事業接続の可能性は。

**答** 上下水道課長

女井間池水利組合や近隣の住民から、公共

下水道事業エリア外の汚水が来ることは絶対ないようなと言われている。

**問** 現在の大きな問題は何か。

**答** 上下水道課長

周辺住民の方のご理解を得ることである。

## 農業集落排水事業

**問** 建設場所の決定が先送りになった場合の補助金への影響は。

**答** 上下水道課長

23年度の事業再開に向けて、エリアの見直しなどに期間を要することから、建設場所の位置決定を早急にしたい。

**問** 周辺住民の100パーセント同意の必要性は。

**答** 上下水道課長

同意を求める努力は



▲耐震化された三木中学校校舎

必要であるが、建設場所の決定は事業主体である町が決めることであるとの県から助言を得ている。

### 5月開会

担当課から、本年4月13日開会の、本特別委員会以降の公共下水道事業と、農業集落排水事業の状況について説明があった。

### 公共下水道事業

**問** 最終の放流先は、新川になっているのか。

**答** 上下水道課長  
放流先については、今後、県と協議して検討したい。

**問** 周辺住民の対応と今後の方針は。

**答** 上下水道課長  
今後とも理解を得る努力をしていきたい。

### 農業集落排水事業

**問** 三木東地区における処理場についての執行部の考えは。

**答** 参事

本年2回開催した住民との意見交換会で出された意見や意見交換会の際に示した経済比較などを総合的に検討した結果、新開地区に浄化センターを建設したいと考えている。

**問** 新開地区で決定した場合、エリアの見直し  
の必要性は。

**答** 上下水道課長  
エリアの見直し案ができれば、本特別委員会に諮りたい。



▲マンホールのふたデザイン  
(公共下水道)

## 請願・陳情のゆくえ

平成22年 陳情第1号(平成22年3月1日 受付)

三木浄化センター(仮称)建設に対する陳情

6月2日  
不採択

三木町大字池戸1253番地6 四角寺南団地自治会一同代表 高橋 英幸

平成22年 陳情第2号(平成22年3月2日 受付)

農業集落排水事業三木東地区の浄化センターの早期建設を求める陳情書

6月2日  
採 択

三木町大字鹿庭821番地 三木東地区農業集落排水事業推進協議会代表者 笠井 勇 他2095名

平成22年 陳情第3号(平成22年3月4日 受付)

農業集落排水事業三木東地区管路の公共下水道の処理場への接続を求める陳情書

6月2日  
不採択

三木町大字下高岡1459番地1 ウォーキングセンターを守る会代表 北内 穰 他514名

平成22年 陳情第4号(平成22年5月18日 受付)

町道平尾鳥打線の道路整備を求める陳情

建設経済常任委員会へ  
付 託

三木町大字平木1123番地 代表者 柏村 孝一 他104名

(平成22年5月18日 受付)

「下水道事業を次期町長決定まで凍結」に関する陳情書

議員へ配布

三木町鹿伏470番地4 山口 正治 他4名

### 陳情第1号

**反対討論**

西丸一明議員

委員会の審査、審議が十分になされていないため、不採択に反対、住民の陳情に賛成である。

**賛成討論**

谷畑健二議員

審議は十分に尽くしている。建設を中止ということについては、賛成できる内容ではない。

### 陳情第3号

**反対討論**

西丸一明議員

消極的な委員会の態度、いわゆる監視とチェックの機能が果たされていないことから、反対である。

**賛成討論**

松原哲也議員

審議過程において、一定の結論を出すのが議会の役割である。委員会の不採択とした判断はこれでよい。

# 元気なグループ紹介

## 「カラオケ結成から現在まで」

讀南きらく会  
会長 佐々木 勉

わが讀南きらく会は、字のごとく気楽(きはら)くに参加でき歌えることを考え発足しました。それからはや、十五年過ぎ会員の平均年齢も七十歳過ぎ高齢になりましたが、がんばって活動しています。

また、歌の楽しみとしては、年三回の香川県カラオケ連盟と町からのサポートとして行われている三木町文化祭等のイベントにも参加できることにより日頃の成果が発揮できること。また、歌以外の楽しみは、年数回、新年会、忘年会等で温泉を利用します。それにより、親睦をも図り、かつ日ごろの疲れを癒

わが讀南きらく会話をもち時間を通して話をもして時間を過ごしています。

シストレス解消を図っています。

今後、何年続くかわかりませんが、会員がいる限り頑張っていきたいと考えております。最後に、歌に興味のある人は神山公民館まで遊びに来てください。



▲私たちがメンバーです

## 溝渕清美議員 急逝

本年5月1日、逝去されました。



溝渕清美 議員  
享年 78歳

溝渕議員は、昭和54年4月に町議会議員に初当選され、以来8期31年余、その間、町議会正副議長、常任委員長を歴任されるなど、議会人として活躍されました。

同氏の長年にわたる町政への功績をたたえるところに、安らかなご冥福を心よりお祈り申し上げます。

## お気軽に議会を傍聴しませんか

本会議の傍聴人の定員は、30人となっておりますが、当日の午前8時30分で、傍聴希望者が30人を超える場合は、抽選を行います。

●お問い合わせは、議会事務局へ  
(087) 891-3311

次の定例議会は、9月中旬頃の予定です。

## 編集を

## 終えて



今年の四国は、最高潮に熱気に包まれている▼NHKのドラマの舞台が四国に集中しているおかげで、四国ブームが起こっているのだ。昨年の朝の連続ドラマ「ウエルカメ」が徳島県、スペシャルドラマ「坂の上の雲」が愛媛県、そして今年の大河ドラマ「龍馬伝」が高知県と、とにかく今四国が注目を浴びている▼これらのドラマによる経済効果は415億円が見込まれている▼不況にあえぐ地域経営者にとって、この千載一遇の観光ブームが、景気回復の好機になるのは間違いない▼今年のGWは、四国高速道路の交通量と渋滞が過去最大となったようである▼たかがドラマ、されどドラマ。この機運が四国観光の再建につながって欲しいと願うばかりである▼

(T・M)